



## 第四十八回「卒業証書授与式」より



3月15日、春を思わせる陽気の中、第48回卒業証書授与式を挙行いたしました。式辞の抜粋を紹介させていただきます。



小栗栖中学校 第四十八代卒業生、七十七名の皆さん、義務教育の卒業、おめでとうございます。開校以来の卒業生は七千三百九十八名となりました。歴史と伝統を積みかさね、皆さんもそれを引き継いでくれたことに感謝します。マスクでお互いの顔をまともに見合うこともできず、昼食は前を向いたまま「黙食」というこれまで聞いたことのないルールで食事をとるという生活が続きました。先ほど、卒業生七十七名に卒業証書を一人一人に授与することができました。小栗栖中学校に赴任して初めてできたことです。これも縮小の中で、クラス代表にのみ授与していたのですが、校長の想いとして一人一人に手渡したいという願いが叶い感謝無量です。

昨年度話題になった言葉に大谷翔平選手の「憧れるのはやめましょう」というのがありました。大変インパクトのある言葉であり、試合の結果を大きく左右したことは事実です。しかし、この部分だけが独り歩きしているところに不安があります。まず、大谷選手自身が大リーグに憧れ、夢を追いかけて海外に渡ったわけです。そしてすごい選手の中でプレーをし、そのすごさを目の当たりにして、憧れていっては超えられないことに気づき、決勝を前に、「今日、超えるために、トップになるために来たんで、今日一日だけは、やっぱり憧れてしまったらこえられないんで」とみんなを鼓舞するために言った言葉の一部なのです。

つまり、大谷選手はしっかりと自分の憧れを持ち、その目標に向けて努力したからこそ言えた言葉なのです。

私がお願いしたいのは、まず「憧れができる何かを見つけること」「それに向かって努力をすること」というのはこれまでも言われてきたことですが、そこに新たに「その憧れを具体化する」と同時に、今度は「自分が憧れられる存在になる」ことをを目指してほしいのです。誰より大谷選手はみんなから憧れられる存在になっています。

新たにできる京都市立栄桜小中学校の先輩として見守ってもらいたいと思います。というのも壱岐島での修学旅行は皆さんにとっても思い出深いものになったことだと思います。京都とは全く違う環境の中、自然に親しみ、島の皆さんの愛情に触れることができました。その中で聴いた講演会の内容に「Uターン・Iターン」という地元のことを考えるきっかけをもらいました。今皆さんのが住むこの小栗栖地域に対する想いを胸に皆さんは直接通うことはないのですが、将来ずっとこの地に根付く学校となるわけですから、皆さんの子供や孫が通うことがあるかも知れません。ぜひ地域に誇れる学校となるよう協力をお願いします。

それでは、これからも小栗栖での出逢いを大切にし、学び続ける気持ちを持ち続けてくれることを祈念し、卒業証書の授与と同じく、今回から復活させました式歌「旅立ちの日に」の合唱でこの会場を感動の渦に巻き込んでくれることを期待し、こうして復活した心温まる卒業証書授与式が当たり前のように行える、平和で安全な日本であり続けることを願いつつ卒業生の皆さん前途を祝福し式辞といたします。

## 合計417,049円になりました



先日、日本赤十字社京都府支部に醍醐4校の募金の合計を持参しましたが、その

正確な合計金額が届きましたので、お知らせします。417,049円という皆さんの気持ちが集結したことになりました。まだまだ避難生活が続き、満足に学校生活を送ることができない方がたくさんおられるようです。少しでも役に立てばと思います。日本赤十字社のHPに掲載された際はまたお知らせします。

## &lt;今後の予定&gt;

3月25日（月）	離任者HP掲載（午後）
28日（木）	離任式（10時）
4月 8日（月）	着任式・始業式
9日（火）	入学式